一つの繋がり

近畿大学附属豊岡中学校3年1組　池上（いけがみ）　十和子（とわこ）

家族で一昨年の写真を見返していると、「今じゃ密だよ。」「マスクしてないの変な感じするね。」等といった言葉が飛び交う。コロナウイルスによって大きく変わった生活により、私達は極力、アクリル板か、インターネットを挟んだ上で会話するようになった。インターネットに関しては以前からそうであったかもしれないが、テレワークや、オンライン授業・オンライン飲み会等、これまで無かったような新しい利用の仕方が増えたと感じる。

そんな中で私が疑問を抱いたのは、日本でさえ逼迫した状況であるのに、日本以上に貧しい国や、衛生環境の良くない地域の状況はどれほどのものなのかということだ。ニュースで目にすることもある内容だが、詳しく知りたかったため、本やインターネットを利用して調べてみた。するとやはり、『コロナウイルスの影響によって、昨年は世界人口の約10分の1、最大で8億110万人が栄養不足に陥ったと推定されている。』といったことが書かれていた。私は、このように貧困に苦しんでいる人々を、今まで以上に世界が1つとなって協力し、助け合える方法は無いものかと考えた。

そこで見つけたのが、国際連帯税だ。国際連帯税とは、気候変動や貧困、疫病などの地球規模の問題への対策資金を創出するための税である。国境を越えて展開される経済活動に対して課税し、その税収を途上国向けの開発支援などに活用することを目的としているものだ。この税は、日本では現在検討されているところであり、まだ導入されていない。だが、世界では、予防接種資金調達補助や、医療品購入補助機構などといった具体的な動きとして、既に取り組まれている。

私はとても驚いた。もしこのシステムが世界中で実現すれば、先進国と発展途上国の間にある格差が減少する。そして、先進国が発展途上国の資源を搾取してばかりで、その地域がそれにより益々貧しくなっていくような悪循環も解消できるだろう。貧困や疫病のための募金箱を、お店のレジで見かけることが多々ある。しかし、それらは自主的なものであり、強制ではない。それが税として義務化されるということは、同じ地球上に住む人間の誰もが手を取り合うべきであり、それは当たり前なことなのだという認識が、人々の中で普通の感覚になるということなのだと思う。これはとても喜ばしいことだ。

世界中の人々の生活が、コロナウイルスによって一変した。だが、この変化の中で、自分に何が出来るのかを考えたり、世界の共通課題であるコロナウイルスに関する問題に目を向けたりとそこから新しい発見や解決策を見出すことは誰にでも出来る。私達の税金が、世界中を巡る日が近いのかもしれない。世界中を自らの足で旅することの出来ないこのご時世において、この税金が思いを届けてくれる繋がりの一つになるような気がした。